

JAMトピックス

機関紙JAMコラム集 発刊の集い

JAMへの応援詩^{うた} 執筆勇退 服部相談役へ 感謝の記念品贈呈



唯一無二のケヤキの木彫り 感謝の記念品を贈呈



前列左から曾根氏、大木康義氏（連合埼玉元事務局長）、服部氏、石原
俠二氏（連合埼玉元副会長）、宮本氏、
後列左から発刊の集い事務局（宮崎、小嶋）、安河内会長、小林妙（連
合本部出向）、事務局八鍬

本紙「機関紙JAM」の1面COLUMN（コラム）を執筆されたJAM初代会長・服部光朗氏（JAM相談役）が昨年11月25日号を以て筆を擱（お）かれた。これまで執筆された全コラムとイラストを時系列に纏めた「機関紙JAM コラム集 JAMへの応援詩（うた）」を発刊し、昨年末の12月25日に埼玉県熊谷市でJAM安河内会長や宮本前会長らが参加し「発刊の集い」を開き共に祝った。

安河内会長からは、富山県の木彫り工房で製作した高さ20センチのケヤキの木に「感謝」と彫った唯一無二の記念品が贈呈され（写真上左）「時に厳しく、常に優しくJAMの運動をまさに応援詩（うた）としてエールをいただいた。中小労働者の最大の応援者であり、25周年を機に勇退されるのはたいへん寂しい」などと語った。

服部相談役の同志であり、JAM結成1期目の中央執行委員を歴任された曾根強氏（当時JAM埼玉・現JAM北関東・写真上右）からは「昭和39年にヂーゼル機器（現ボッシュ）に入社したときに服部氏（＝以降彼）は2年先輩。賃上げの結果を組合に文句に行った時の書記長が彼だった。その後、私は職場委員から執行委員になり、昭和44年に執行部仲間とともに同氏を執行委員長に担ぎ出した。それ以降賃上げ・夏冬一時金闘争時には格差是正を求め毎年ストライキを数年続けた。現在ボッシュ労組の執行委員長は今日同席している今井信博君だが、いまは世間並みの賃金になったのではと自負している」。

毎日言い合いのケンカ

「彼とは労組現役時に毎日のようにケンカ（＝議論）し、東京・JAM本部から一緒に埼玉・松山に帰宅したときは電車の中ずっと喧嘩して、松山駅降りてもベンチで1時間ほど言い合いをしてから帰宅の途へ」。

「彼は入社と同時に結婚し（当時会社初）社宅に入っており、私が独身時代毎日のようにメシを食いに行っていた。二人の一番の違いは彼は大酒呑みだが、私は下戸であること。家族同様兄弟以上の付き合いで、私の仲人であり、彼の息子は私が仲人を務め、私の息子は彼が仲人で、彼の息子の息子（孫）は私が仲人をした。知り合ってから60年経っても、こういった関係が続いている」などと昔話を友人代表として披露した。

服部相談役はJAM結成以来、機関紙JAMの1999年11月8日号（第2号）から執筆を始め、結成25周年を機に昨年11月25日号（第310号）を以て勇退された。

この25年間、体調不良時にも欠かさず執筆し、コラムのイラストも本人が描かれた。



友人代表として兄弟以上の付き合いであることを語る曾根強氏（右）